

令和5年度 自己評価書

学校園名 附属特別支援学校

1 学校経営計画
別紙のとおり。

2 自己評価

領域	重点目標・具体的取組	達成状況・成果と課題	評価	今後の改善方策	学校関係者評価を踏まえた今後の改善方策
学校運営	<p>◎with コロナでの教育内容の検討と実施</p> <p>◎東久留米地区の特色化に向けた検討を行う（生涯発達支援学校）。</p> <p>◎現在の大学（特別支援科学講座、教職大学院、特別支援教育・教育臨床サポートセンターを中心に）との連携を維持、強化する。連携会議を開催し、協力関係を強化する。</p>	<p>・令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い、これまで行われてきた感染予防対策については、段階的に縮小してきた。現在、学習活動および学校行事も制限なく、コロナ禍以前の状態に戻っている。感染症の対応については、行事を実施するうえで意識するようになってきている。</p> <p>・大学の第4期中期目標・中期計画（令和4～令和9）により、本校の特色化について「生涯発達支援学校」に関する取り組みを、昨年度から引き続き行っている。若竹会の活動も含め様々な面での検討を行っている。</p> <p>・本校の現在の課題や将来的課題を共有するため、本学特別支援科学講座、特別支援教育・教育臨床サポートセンター教員と「三者の会連絡調整会議」を実施し、意見交換を行った（今年度1回、7/5）。今年度もリモートで開催し、大学から9名の教員が参加できた。</p> <p>・1月26日に研究協議会を開催した。北海道から九州まで約100名の方に参加していただいた。例年通り、授業研究会等に共同研究者として東京学芸大学の特別</p>	B	<p>・新たな感染症に備えた対策を今回の経験をもとに計画しておく。</p> <p>・「生涯発達支援学校」について具体的な内容を検討していく。</p> <p>・上記計画について大学教員とも連携をとっていく。</p>	<p>・若竹会やPTAの意見等も取り入れながら内容の検討をする。</p>

	<p>◎校務分掌業務のマニュアル化を推進し、今年度中にマニュアルの完成を目指す。</p> <p>◎校務分掌に関する文書や各部内の文書の整理を行い、スムーズに業務が行えるよう工夫する。</p> <p>◎災害発生時の対応マニュアルを整備する。</p> <p>◎教職員の災害対応訓練について検討する。</p> <p>◎ホームページを充実させ、情報発信力を強化する。</p> <p>◎研究成果の発信方法を検討する。</p>	<p>支援科学講座、同特別支援教育・教育臨床サポートセンターの大学教員に参加・指導していただき、日常的に情報交換を行った。各学部にて2～3人の大学教員に協力いただいた。協議会当日は助言者として参加していただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前作成した各校務分掌の業務マニュアルのひな形をもとに、各分掌での作成を依頼するにとどまった。今後、検討を重ね完成版を目指す。 ・新型コロナウイルス感染症の5類移行後も教員会議のリモートでの実施を継続した。それにより全体的な会議の回数を減らせ、一部教員への負担の軽減や印刷物も減少させることができた。朝会も各部主事と数人の参加にとどめることを継続した。またその他の連絡事項も、緊急連絡システムやリモート会議システム等を活用することでスムーズに行うことができた。 ・出席簿の電子ファイル化した。また保護者からの各種提出物を電子ファイル化し、提出も大学のクラウドシステムを利用することで簡略化できた。 ・災害発生時の対応マニュアルの項だてを考えた。内容については現在検討中である。 ・不審者対応訓練・消火訓練・救命救急訓練を実施した。 ・12月にホームページの改定を実施した。 ・これまでの研究成果（各年度の研究概要 	<ul style="list-style-type: none"> ・各校務分掌の年間計画に、マニュアル作成を盛り込む。 ・校務のDX化について、引き続き模索していく ・校務分掌のマニュアルを完成させ、業務の効率化を図る。 ・災害発生時のマニュアルを整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援職員等を導入し、一部教員の負担軽減を図る。
--	---	--	---	--

	<p>◎学校公開の開催方法等を検討する。</p> <p>◎願書等提出書類の電子ファイル化を検討し、実施する。</p>	<p>)をホームページに掲載した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験予定者に限定することなく学校公開・入学説明会を実施した。また6月の説明会は教育関係者を対象として実施した。 ・中学部・高等部の内申書に関しては電子ファイル化した。書式のダウンロードは大学のクラウドシステムを利用した。 		<ul style="list-style-type: none"> ・受験者増加の検討を行う。 	
教育活動	<p>◎4学部の年間指導計画の構成と形式をそろえる。</p> <p>◎学習指導要領と本校教育課程との関連性を明確にする。</p> <p>◎教材共有フォルダの整理を行い、使いやすい環境作りを目指す。</p> <p>◎タブレット端末等のICT機器を利用した指導及び教材の開発をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4学部の年間指導計画を元に、「本校の教育」として現教育課程を冊子にすることができた。その際に学習指導要領との関連を意識して作成した。 ・教材共有フォルダに関しては、各学部内での教材の蓄積がされてきているものの、共有フォルダに入っていないことも多くある。今後、さらに使いやすいシステムや構成などを検討することが必要である。 ・指導内容や子どもの状況に合わせ、ICT機器を使用して指導を行っていた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員への周知とシステムの再検討を行う。 	
研究活動	<p>◎校内研究の充実のための教員研修会を実施する。</p> <p>◎特別開発研究プロジェクトへの応募を増やす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究部主導で、夏季休業中に3回実施した。テーマは、「ことば」「進路」「WISC」であった。また将来構想に関する座談会を将来構想委員会により実施した。 ・新規の特別開発研究プロジェクトへの応募はなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員へ周知する。 	
学生の教育・支援	<p>◎教育実習のシステムや内容等について検討し、大学と協議する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学とシステムや内容について十分な検討を行うことができなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・C類学生の実習内容についての大学との協議を検討する。 	

活動	◎教育実習日誌のeポートフォリオ化をすすめる。	・大学全附属学校を対象に教育実習のeポートフォリオ化を実施した。			
社会貢献活動	◎地域の関係者を対象とした研修会を開催する（2回）。 ◎現場実習、在校生の就労、卒業生の就労・生活支援に関し、地域の関係機関と連携する。	・研修会については、今年度ネットフォーラムは実施できたが、幼稚部公開講座は当日台風の影響で中止となった。 ・現場実習等で、多くの地域の関係機関の協力を得ることができた。 ・本校を会場とした夕涼み会を、地域の障害者福祉団体と合同で4年ぶりに実施することができた。	A	・ネットフォーラムは「卒業後の生活」テーマにし、教員だけでなく、保護者や福祉関係者も対象とする。	・東久留米市や学区の自治体の教員を対象とした特別支援教育に関する研修会の可能性を探る。

3 その他特記事項 なし

4 自己評価委員会委員、開催日

委員長 藤野 博

副委員長 湯山 孝司

委員 井上 剛 委員 柴田 琢磨

委員 沼澤 聡子 委員 松本 晃

委員 中村 昌宏 委員 廣島 幸子

開催日 令和6年2月26日、令和6年3月19日